



教員から
学生へ
推薦図書

学生みなさんに読んでほしい一冊を、大学の蔵書の中から紹介していただきました。学生時代に会った本や、息抜きに読める本などさまざま。ぜひ図書館で探してみてくださいはいかがでしょうか。



★
グーグル秘録
完全なる破壊

ケン・オーレック 著 土方奈美 訳
(文藝春秋2010)
名図開架 007.3:A96 豊図開架 007.3:A96



名古屋校舎
岩田 眞典
経営学部



「ググる」という言葉は、Web検索を意味する動詞として一般的に使われるようになってきている。これは検索サービスの「Google」に由来しており、英語でも「Google it」ように辞書に掲載されはじめています。Googleは検索以外にも「Gmail」、「Google Map」や「Google 翻訳」など日常生活で手放せない各種のサービスを提供している。本書はこれらのサービスを提供しているGoogleがなぜここまで大きくなったのか、既存のメディア産業に対してどのような優位性を持つことで勝利してきたかについて言及されている。また、インターネット黎明期におけるさまざまな会社との対比も興味深い。さらにGoogleに対して批判的なことも書かれているため、単なる礼賛本にとどまっていない点からも一読の価値がある。



★
鑑の近代：
「法の支配」をめぐる日本と中国

古賀勝次郎 著
(春秋社2014)
名図開架 311.2:Ko24



名古屋校舎
吉川 剛
現代中国学部

本書は社会思想の切り口から東洋と西洋の「法」を考察するものである。法思想史として、儒家と法家における「政」「正」「法」を取り上げ、「法の西洋」と「政の東洋」とを対比し、双方の「法」について論じる。近代期での日本や中国における西欧型「法の支配」、「法治」などの継受については、「自然法」、「歴史法学」「法実証主義」の論点を整理し、「管子」を軸に、その継受のプロセスを思想的基盤から読み解くのである。法や近代型法治国家について、いくらかの関心をもつ学生諸君には、本書を一読することを薦める。現代に至る「法」に関する考え方を理解する上で、本書が扱っている論点を熟読玩味し、関連事項を調べながら読んでほしい。



★
市場像の系譜学：
「経済計算論争」をめぐるヴィジョン

西部忠 著
(東洋経済新報社1996)
名図開架 331.845:N81 豊図開架 331.845:N81



名古屋校舎
塚本 恭章
経済学部



わたしが大学を卒業する直前に刊行された本書は、「人生を変えた本」だ。就職先を辞退し、大学院進学を決意させたからであり、20年以上に及び著者との交流は、わたしの学業人生においてつねに大きな刺激と好奇心を喚起し続けた。本書は20世紀最大の「社会主義経済計算論争」をテーマとしている。新古典派やオーストリア学派、マルクス学派など競合的学派の論者が多様な問題群をめぐって活発な議論を展開した。20世紀初頭に誕生した社会主義の理論的・実証的存立可能性が問われたのであり、また当該論争は、市場と貨幣の機能的特性の再発見という重要な所産をもたらした。本書の系統的で深い考察は時代を先駆けた内容を豊かにもつ。著者の西部氏には、わたしの本学担当科目「市場経済とくらし」で一度講義していただいた。初めて本書に接したときの知的興奮と驚きは決して忘れることはない。そんな一冊に学生諸君もぜひ出逢ってほしいと願っている。



★
地方自治講義

今井照 著
(筑摩書房2017 [ちくま新書 1238])
豊図開架 ちくま新書 318:143 名図リザーブ 318:143



豊橋校舎
鄭 智允
地域政策学部

全国大学生協連合会の調査によると、1日の読書時間が「ゼロ」の大学生が2017年初めて5割を超えたという。これはまずい。国会図書館がいうように真理は我らを自由にする。真理には書により近づける。読書ゼロは社会的損失につながる。本学の学生も、読書時間が「ゼロ」の割合は同程度なのではないだろうか。そこで私の担当する科目の初回で、日本国憲法には地方自治の規定が有ると思うかと問うたところ、半数近くの学生が憲法にそのような規定は「無い」と答えた。二択で正答率5割…。本書の著者は、社会の致命的な失敗をもたらさないために、地方自治の歴史に関する知識は欠かせないと述べている。私も同意見である。学生諸君には、社会への門出前に備えるべき教養として、この本の一読をお勧めしたい。



★
ひみつの王国：
評伝 石井桃子

尾崎真理子 著
(新潮社2018 [新潮文庫])
名図文庫 910.268:I75



名古屋校舎
大川 四郎
法学部



石井桃子(1907-2008)は、アラン・アレクサンダー・ミルン著『クマのプーさん』の名訳と、自らの創作童話『ノンちゃん雲に乗る』により、児童文学者として著名である。他方、晩年の長編小説『幻の朱い実』は、児童文学とは大きく異なる。とはいえ、石井本人の個人史に大きく依拠している可能性が高い。こうした点に触発された著者は、石井本人に長時間にわたるインタビューを行い、周辺関係者への幅広い取材と、諸方面から収集した膨大な石井書簡を引用し、石井の書き残したテキストとも綿密に考証した上で、本書を上梓した。著者によれば、編集者として勤務した文藝春秋社、新潮社、岩波書店におけるキャリアと人脈とが、児童文学者として石井が成長する上で、大きく関わっている。その点において、本書は「出版史」である。それ以上に、女性の社会進出が困難だった時代に、地味ながらも誠実かつ知的な人生を全うした一女性の個人史としても、本書は読み応えのある作品である。



★
深夜特急1
一香港・マカオ

沢木耕太郎 著
(新潮社1994 [新潮文庫])
名図文庫 915.6:Sa94:1



車道校舎
池亀 尚之
法科大学院

当時26歳の著者による、香港・マカオの大変有名な旅行記。わずかな所持金で、行き先を決めずに、海を越えて旅に出る。自分の知らない世界に案内してもらい、自分にはできないことを疑似体験する——発刊からずいぶん時間が経っていますが、読書の楽しさを思う存分に味わわせてくれます。『深夜特急』全6巻の他、『旅する力—深夜特急ノート』等、関連書籍も出版されています。どれから手を取っても、シリーズの魅力を十分に感じ取ることができるでしょう。



★
イン・ザ・ミドル
ナンシー・アトウェルの教室

ナンシー・アトウェル 著
小坂敦子、澤田英輔、吉田新一郎 編訳
(三省堂2018)
名図開架 375.8:A95



名古屋校舎
吉本 篤子
国際コミュニケーション学部

著者アトウェルがアメリカの中学校で行っている読み書き教育について書いた本。その教育の最大の特徴は、子どもが毎日自分でテーマを決めて書き、自ら本を選んで読む、ライティング/リーディング・ワークショップ形式で行っていることだ。子どもたちが自立した読み手、書き手になるために、教師は必要に応じて子どもの活動を指導し、支援する。自分で選んだ本に浸って読み、自分らしくよい文章を書くことが人生にとっていかに大切であるかを、本書は教えてくれる。カリキュラムや生徒数の都合上、日本にそのまま導入するのは難しいだろうが、訳者による日本の中高での導入例、解説と充実した資料が参考になる。とくに国語科教員をめざす学生には必読だ。



★
次の震災について
本当のことを話してみよう

福和伸夫 著
(時事通信出版局2017)
豊図開架 369.31:F84



豊橋校舎
迫田 耕作
短期大学部

心配なことはたくさんあるが、もっとも心配なことは、南海トラフ大地震である。NHKスペシャル、特にMEGAQUAKEシリーズは、たくさんの専門家に取材し、豪華なCGなど、優れた番組である。私は最先端の研究結果を知ることができた。しかし、私たちが本当に知りたいのは、私たちが住んでいる建物はどうなるのか、火災はどうなるのかなどの具体的な説明である。NHKだけでなく専門家のすべてが南海トラフ大地震の本物の姿について沈黙しているように見える。その中で、政府の中央防災会議作業部会委員でもある福和伸夫氏は、本物の御用学者でありながら本書において現場経験にもとづき、本当のことを淡々と話している。